

# 石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和3年(2021)/11.30 発行 No. 178

## CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第9回江口記念がん優秀活動賞受賞紹介
- ・2021年度日本医療薬学会学会賞受賞者・受賞論文紹介
- ・第43回 石川県病院薬剤師会 新任薬剤師研修会
- ・委員会報告
- ・となりの薬薬連携物語
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿



〔巻頭言〕

病院薬剤師の未来を考える

石川県病院薬剤師会 理事 芳珠記念病院 薬剤部長 森 光恵…… 1

〔日本病院薬剤師会第9回江口記念がん優秀活動賞受賞紹介〕

〔石川がん専門薬剤師チーム〕

金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学研究室 菅 幸生…… 3

〔2021年度日本医療薬学会学会賞受賞者・受賞論文紹介〕 Postdoctoral Award

〔Human monocarboxylate transporter1,4(hMCT1,4)の基質選択性の違いを決定する

分子メカニズムに関する研究〕 金沢大学附属病院薬剤部 二木 悠哉…… 5

〔令和3年度（第43回）石川県病院薬剤師会 新任薬剤師研修会〕

新任薬剤師研修会WEB開催報告 NHO金沢医療センター 秋山 哲平…… 8

新任薬剤師研修会-WEB開催-に参加して 金沢医科大学病院 池田 真菜…… 10

新任薬剤師研修会アンケート結果 …………… 11

新任薬剤師紹介 …………… 14

〔委員会報告〕

感染制御委員会 第19回石川県感染制御セミナー報告

〔COVID-19の薬物治療～第5波に備える～〕

公立松任石川中央病院 三田麻友子…… 21

感染制御委員会 第20回石川県感染制御セミナー報告

〔COVID-19薬物治療の標準化を目指して～一人で悩まず皆で悩もう～〕

金沢市立病院 鳥羽英理子…… 23

総務委員会 川柳大会

総務委員長 ソフィア病院 中山 貴央…… 25

〔となりの薬薬連携物語〕

みらい病院 中島 久徳…… 28

〔薬局の窓口から（82）〕 便秘治療薬の新しい時代の到来

NHO金沢医療センター 室谷 理沙…… 29

〔エキスパートに聞く！～輝く石川のキラ星～（20）〕

腎臓病療養指導士 …………… JCHO金沢病院 宮田 久恵…… 34

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …………… 36

〔南船北馬〕 …………… 37

〔寄稿〕

〔古寺との結縁-55〕 白杵石仏・富貴寺・観世音寺 ～九州の国宝を巡る～

院瀬見義弘…… 38

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

表紙写真 撮影  
：熊走 尚志

NTT出羽町ビルの楓

色づくのがそれぞれに違ってグラデーションを堪能できる場所。

裏表紙は長町の土堀、冬の風情。冬になると土堀を雪などから守るために全長1250mにわたり、二日間かけて職人さんによる薦かけが行われ、春になると取り払われる。

## 病院薬剤師の未来を考える

医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 森 光 恵  
医療技術局 薬剤部 薬剤部長

石川県病院薬剤師会会員の皆様におかれましては、平素の忙しさに増して、COVID-19の治療薬やワクチンの管理や調製関連、また各種薬剤における入荷不良等に対応する日々が続いていることと思います。更に有給休暇の最低取得日数もあるため、もっとITを駆使して安心安全な薬物療法を遂行することが必要ですが、ITの進歩も目覚ましく、実際の業務でどのように取り入れるべきか、多くの事を考えなければならない現状が続いています。

石川県病院薬剤師会では各地域の役員を増やすタイミングで、会長より直接お電話をいただき、県病薬の理事および地域連携推進委員会の副委員長を務めさせていただくことになりました。また、日本病院薬剤師会からもお声をかけていただき、現在、地域医療委員会の委員をさせていただいております。そんな中で病院薬剤師の未来を考えた事柄を、項目別に記載させていただきます。

### ●日病薬の地域医療委員会にて

当院では地域包括ケア病棟の関連で「地域医療連携の手引きVol.2」に掲載されましたが、今年度はVol.3の作成のための取材をしています。各地域での取り組みは大変参考になりますが、取材している中でひとつ確信したことは、地域連携の前に院内連携が重要であり、院内連携がスムーズな病院が成功しているということです。院内の困りごとを、他部署に相談したとき「誰に相談すると上手く解決するか」など、一つ一つ積み重ねていき、それが院外の連携につながっているようです。院外の連携においても、「顔の見える関係」から「心が通い合う関係」を目指し、電話で情報共有することでも信頼関係が築けているということ、「成果を数字で示すことで、自分たちのモチベーションの向上と上層部にもアピールできる」などの素晴らしいリーダーシップや、「現場にある程度、業務改善の権限を与えPDCAサイクルを早くまわす」などのヒントもあり、来年には発表しますので、皆様ご期待ください。

### ●連携ツールは「服薬情報提供書（トレーシングレポート：以下TR）」へ

令和3年8月から始まった「地域連携薬局」の要件である「月30回以上の医療機関への連絡」に疑義照会は含まれません。今後は適切なTRを増やし、医療安全につなげることが肝要です。どんなTRが望まれるかを病院薬剤師が調剤薬局と共に考え、情報共有することが必要だと思います。ただ、電子処方箋への対応や、電子処方箋だったら疑義照会やTRも電子メールでしょうか。厚労省からの電子処方箋の運用ガイドラインには「地域医療情報連携ネットワークなど、利用する医療機関と薬局が特定された、

セキュリティの高い専用のネットワークサービスであれば、安全性を確保できる。」とあり、石川ネットに「電子院外処方」機能が結びつくことで、疑義照会が不要となったり、患者の病名も確認できたりと、地域連携が大きく進むと考えています。この地域に開かれた情報共有ネットワーク「石川ネット」や「たまひめネット」は日本国内ではあまり類を見ない地域の医療連携システムのように、私は大いに期待しています。

#### ●南加賀医療圏での薬剤関連連携チームの発足

南加賀地区では院外処方箋に検査値を印字している4病院で連携チームを作り活動する予定です。先日、検査値による疑義照会に関する研修会を地域の調剤薬局向けに4病院合同でWeb開催をしました。当院では検査値を印字してから8年経ちますが、腎機能による薬剤調整の疑義照会は、ほぼ門前薬局だけです。半数近くの処方箋が門前以外で調剤されているようなので、疑義照会されていないケースがあると考えています。まず、腎機能障害関連の疑義照会の適正化に取り組むことから始めたいと考えていますが、今後はどの様なTRが医療安全につながるかという論点で、地域の調剤薬局にも協力していただきながら、研修会を開催していきたいと考えています。ただ、疑義照会もTR、も各病院の決まった手順がありすぎると、調剤薬局側は煩雑です。医師にも分かりやすい事も重要ですし、病院側もいろいろなTRを準備することも負担になります。地域の病院で統計を取る場合には、なるべく統一した部分があると良いと考えます。金沢地区の一部でもあるようですが、京都府では広域に抗がん剤やオピオイド使用患者のTRの雛形が公開されており、また、大分県中津市民病院では化学療法のテレフォロアアップなどが統一化されているようです。院内でもそうですが、地域活動においても、お互いの負担を少しでも減らすような運用を考えることが必要だと感じています。

#### ●病院薬剤師の未来を考えると

病院機能や地域の特性や病院の規模により、また、技術革新や時代の波などのタイミングにより、状況に合わせた最適な行動を自ら考え、可能な限り、自ら行動していくことが重要であることは間違いありません。ただ、足元ばかり見ていると進む方向がずれてしまうことも多く、「初心にかえる」とか「ありたい姿」を想うことは大切で、薬剤師法の第一章・第一条を心に秘めながら、「薬剤師としての最高のありたい姿」を思い描き、それを目指して今の自分の一步を踏み出していきたい。地域連携のために、電話1本かけるだけでも、大きく事態が好転します。人間は「やってしまった後悔より、やらない後悔が大きい」ことを信じています。

おわりに

この石川病薬ニュースの巻頭言を書かせていただけるなんて、「学生時代にもっとちゃんと勉強しておけば良かった」といつも思っている私には信じられない快挙です。編集委員の先生方、本当にありがとうございました。そして、私が今まで幸福だったと思う事は、周りの方々に恵まれたことです。困っていると、そっと声をかけてくれています。「そんな仲間たちをこれからも大切にしていきたい。」と思うばかりです。最後までお読みいただき、ありがとうございました。